

平成27年12月17日
於
府中市立教育センター

平成27年第12回

府中市教育委員会定例会議事録

府中市教育委員会

平成27年第12回府中市教育委員会定例会議事録

1 開 会 平成27年12月17日(木)

午後1時30分

閉 会 平成27年12月17日(木)

午後2時07分

2 議事録署名員

教育長 浅 沼 昭 夫

委 員 齋 藤 裕 吉

3 出席委員

教育長 浅 沼 昭 夫 委 員 崎 山 弘

委 員 齋 藤 裕 吉 委 員 村 越 ひろみ

委 員 松 本 良 幸

4 欠席委員

なし

5 出席説明員

教育部長 今 永 昇 文化スポーツ部長 後 藤 廣 史

教育部副参事兼指導室長 文化振興課長 山 本 忠

三田村 裕 ふるさと文化財課長 江 口 桂

総務課長 志 摩 雄 作 ふるさと文化財課長補佐 黒 澤 明 美

総務課長補佐 北 村 均 図書館長 坪 井 茂 美

学務保健課長 酒 井 利 彦 図書館長補佐 山 本 征 史

給食担当主幹 鈴 木 哲 夫 美術館副館長 須 恵 正 之

学務保健課長補佐 山 田 晶 子

指導室長補佐 古 塩 智 之

統括指導主事 日 野 正 宏

統括指導主事 国 富 尊

指導主事 山 本 勝 敏

指導主事 坂 元 竜 二

指導主事 林 田 孝 子

指導主事 駒 澤 文 泰

6 教育委員会事務局出席者

総務課係長 遠 藤 公巳明

総務課主任 鈴 木 紘 美

議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 議 案

第4 1号議案

府中市郷土の森博物館における指定管理者の指定について

第4 報告・連絡

- (1) 寄附の採納及び感謝状の贈呈について
- (2) 平成27年度セカンドスクール実施結果について
- (3) 「第3期府中市子ども読書活動推進計画」中間報告アンケート集計結果について

第5 その他

第6 教育長報告

第7 教育委員報告

午後1時30分開会

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまより、平成27年第12回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

◇

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第1、議事録署名員指名につきましては、本日の議事録署名員は、私のほか齋藤委員にお願いいたします。

◇

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第2、会期決定でございますが、会期は本日1日といたします。

◇

◎傍聴許可

○教育長（浅沼昭夫君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、お願いいたします。

◇

◎第41号議案 府中市郷土の森博物館における指定管理者の指定について

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第3、議案ですが、本日は追加議案がございます。

議案の審議に入ります。

第41号議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○教育長（浅沼昭夫君） 説明をお願いいたします。

○ふるさと文化財課長補佐（黒澤明美君） ただいま議題となりました、第41号議案、府中市郷土の森博物館における指定管理者の指定につきましてご説明申しあげます。

恐れ入りますが、裏面の1ページをご覧ください。

本件は、地方自治法第244条の2第6項の規定により、平成27年第4回市議会定例会において、指定管理者の指定について、議決されたものでございます。

まず、1の「公の施設の名称及び所在地」でございますが、名称は、府中市郷土の森博物館所在地は、府中市南町6丁目32番地でございます。

続きまして、2の「指定管理者の名称並びに構成団体の名称及び主たる事務所の所在地」でございますが、名称は、「府中市郷土の森博物館運営グループ」でございますが、運営グループの構成としましては、代表構成団体は、「公益財団法人府中文化振興財団」、所在地は、府中市浅間町1丁目2番地でございます。また、構成団体は、「株式会社五藤光学研究所」で、所在地は、府中市矢崎町4丁目16番地でございます。なお、「公益財団法人府中文化振興財団」と「株式会社五藤光学研究所」が「府中市郷土の森博物館運営グループ」として共同運営をする理由といたしましては、30年もの長きにわたり、歴史、文化、コミュニティを機軸にし、地域との密接な協働・連携を築き上げ、地域に根ざした総合博物館の発展に寄与してきた文化振興財団のノウハウと、五藤光学研究所のプラネタリウムに関する最新の技術や幅広い専門知識と豊富な経験実績を結集することで、無限大に広がる可能性をもった新たな総合博物館として画期的な事業運営が期待できることから、共同運営を行うもの

でございます。

最後に、3の「指定の期間」につきましては、平成28年4月1日から平成40年3月31日までの12年間といたします。このことは、プラネタリウムの老朽化に伴い、にぎわいと魅力ある空間を創出するプラネタリウムの更新事業計画やプラネタリウムの斬新な活用方法や事業展開等の立案、策定を28年度から運営グループに担っていただくとともに、博物館の特殊性と専門性、更に、高い技能知識を有した人材の確保や人材育成、また、資料を収集し、調査研究の成果を公開するという博物館の本来の使命を果たすためにも、長期的に安定したサービスの提供が求められるため、12年間の指定期間としたものです。ただし、12年間という長期の指定期間となりますので、毎年の運営状況のモニタリングと、中間時期の運営評価を行い、指定管理者の運営状況の把握を確実に行っていくとともに、市と指定管理者が協働の視点で適切かつ社会通念上、市民に誤解を与えないような関係を堅持し、適宜教育委員会に運営評価等を報告し、ご意見を伺ってまいりたいと考えております。

説明は以上となります。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。

この件につきまして何かご質問はございますか。よろしいですか。ご意見はいかがでしょうか。

それではお諮りします。第41号議案、「府中市郷土の森博物館における指定管理者の指定について」決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 全員異議なしですので、原案どおり決定をいたします。



◎寄附の採納及び感謝状の贈呈について

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第4、報告・連絡に移ります。

報告・連絡（1）を総務課、お願いいたします。

○総務課長補佐（北村 均君） それでは、資料1の「寄附の採納及び感謝状の贈呈について」につきましてご報告いたします。

今回は1件でございます。こちらは、学校教育活動の一層の充実、発展を図るために寄附されたものでございます。寄附の採納先は、府中市立府中第一小学校でございます。寄附品は、トランペット6台、33万5,900円、コルネット4台、30万7,400円、トロンボーン1台、10万1,000円、以下記載のとおりでございます。寄附者は、府中市立府中第一小学校PTAで、受領日は平成27年11月13日でございます。

府中市教育委員会表彰規程第10条の規定によりまして、委員会が適当と認めたときは、感謝状を贈呈できることとなっておりますので、寄附者に感謝状を贈呈したいと考えております。以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） この件につきまして、何かご質問、ご意見ございますか。よろしいですか。報告・連絡（1）について了承いたします。



◎平成27年度セカンドスクール実施結果について

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、報告・連絡（2）を学務保健課、お願いします。

○学務保健課長補佐（山田晶子君） それでは、資料2に基づき、「平成27年度セカンドスクール実施結果について」ご報告いたします。

セカンドスクールは、5月18日から10月30日の間に実施いたしました。今年度は、昨年度の感染症発症を踏まえ、各小学校において体験プログラムや衛生管理などさまざまな対応に取り組み、大きな事故もなく全行程を終了することができました。

恐れ入りますが、裏面をご覧ください。

今年度の参加状況でございますが、参加人数は途中参加を含め2,103人で、在籍数2,116人に対し、参加率は99.4%でした。参加できなかった児童は13人で、理由といたしましては体調不良が9人、家庭の事情や、都合が4人となっております。途中参加の19人と途中帰校の4人につきましては、保護者により現地への送り迎えをしていただきました。

続きまして、2枚目の「学校別医療機関受診状況」をご覧ください。前期が21件、後期が12件の合計33件で、受診理由は虫刺されが7件、発熱及び喘息がそれぞれ6件、腹痛、頭痛を含む体調不良が5件、打撲や捻挫が3件、骨折が1件などとなっております。また、今年度につきましても崎山委員を初め市内の医師2人に無償でご協力をいただきホットラインを開設いたしました。なお、保健室の利用状況でございますが、利用延人数が838人、利用実人数が536人となっており、参加人数に対する利用実人数の割合は約25%ございました。

最後に、セカンドスクールは事業開始から5年が経過し、検証、検討を行う必要があると考え、平成28年度に検証、検討部会を設置する予定です。部会では、成果や課題を検証するとともに、義務教育9年間における宿泊体験等のあり方についても検討してまいりたいと考えております。報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 崎山委員のホットラインを今年もまた開設していただきましてありがとうございます。お礼申しあげます。この件につきまして何かご質問、ご意見ございますか。

○委員（崎山 弘君） 今年の医療機関受診者の中で救急車を利用された方はおられるのでしょうか。

○学務保健課長補佐（山田晶子君） 救急車利用は1件となっております。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） よろしいですか。ほかにかがでしょうか。

それでは、報告・連絡（2）について了承といたします。



◎「第3期府中市子ども読書活動推進計画」中間報告アンケート集計結果について

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（3）を図書館、お願いいたします。

○図書館長補佐（山本征史君） 図書館から、資料3に基づき、「『第3期府中市子ども読書活動推進計画』中間報告アンケート集計結果について」ご報告いたします。

子どもの読書活動の推進にかかわる部署の職員により構成される府中市子ども読書活動推進連絡会におきまして、「第3期府中市子ども読書活動推進計画」を平成25年度より策定し、これに基づき関係部署において各種事業を実施しております。

このたび、市内の児童・生徒やその保護者などに対して第3期計画の成果等を図るための中間アンケート調査を実施いたしました。1の「目的」として、この調査では第3期計画の成果の確認だけではなく、子どもの読書環境、読書意識等の現状を把握し、さらに読書活動を推進するための基礎資料として活用するためでございます。2の「調査方法」として、策定時に行った調査と同様対象者にアンケート調査書の記入をお願いしました。3の「対象者」としてアンケートにご協力いただいたのは、市立小学校4校の6年生、市立中学校3校の2年生、都立高校1校の2年生の児童・生徒です。また、保護者についても1歳6カ月児健診に訪れた保護者、市立幼稚園及び保育所それぞれ3カ所の保護者、市立小学校3校及び中学校3校の全保護者にご協力いただきました。4の「実施時期」は、平成27年7月です。5の「調査結果」ですが、恐れ入りますが3枚目の裏面、調査概要の(6)をご覧ください。「配付枚数及び回収率」は記載のとおりになります。

集計結果につきましては次の4枚目、下にページ番号が記載された資料からになります。平成24年に同様の調査を行っていますが、そのときの調査結果を各設問に掲載し比較がしやすいようにしてございます。

資料3の「6 考察」の(1)で前回の調査と比較して大きな変化はなかったとしていますが、具体的にはアンケート結果1ページをお開きください。「本への興味」として、①「本を読むことは好きですか?」を尋ねましたところ、小学生では「好き」「少し好き」の合計が平成24年は全体の79%だったのに比べ、平成27年は78%とほとんど変わっておりません。中学生、高校生も同じ質問で前回より2、3%減少しているものの「好き」という割合は全体的に変化がなかったと分析しております。また、②の小学生に質問しました、「本を読んでもらうのが好きですか?」に対して、「好き」が平成24年の18%から22%に増えていることは、ご家庭や学校、図書館などでの読み聞かせの日常的に機会があり、また楽しんでいられると考えられます。

次に、「考察」の(2)で、学校の図書室や市立図書館の利用がやや減少傾向にあるといたしました。また、市立図書館の場合、小中高校生とも行かないという割合が増えております。利用促進のために、さらに魅力ある図書館をつくり、PRしなければなりません。

最後に、「考察」の(3)で市立図書館の行っている事業や10代の児童・生徒向けの資料をそろえたYAコーナーに対する認知度は上がっていると分析いたしました。アンケート結果の11ページをご覧ください。「認知度調査」では保護者向けに④『おはなし会』を知っていますか?とお尋ねしたところ、「知っていて参加したことがある」が23%です。「知っているが参加したことはない」が57%から59%に増えております。また、13ページの中高校生に「YAコーナーを知っていますか」との質問に対し、中学生、高校生とも「知っていて利用もしている」は減少していますが、中学生では「知っているが利用していない」が増えています。認知はしていますが利用に結びついていない、また知らない割合も多いためPRを行うとともにより魅力あるコーナー整備が必要と考えます。

今後は、この調査結果をもとに、子ども読書活動がより一層推進されるよう各部署と連携し、実際の利用につながるようなPR、訪れたいくなるような魅力のあるイベントの企画やコーナーづくりを進めて、家庭や学校などさまざまな場所で子どもたちが読書を楽しめるよう努めてまいりたいと思います。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。何かご質問、ご意見等ございますか。

○委員（齋藤裕吉君） 読書感想につきましては、本市のみならず全国的にいろいろな角度から検討されたり、広げられたりしていることであると思うのですが、この調査に当たって、例えば、全国図書館協議会とかそういった全国組織あるいは全都組織との関連で、調査項目を設定したとか、そのような連携を図っているのか、まずお聞きしたいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） では、お願いします。

○図書館長補佐（山本征史君） ただいまの質問ですけれども、ほかの全国の図書館協議会の質問事項とは合わせておりません。前回、平成24年度のアンケート調査と調査要件を極力変えることなく結果を比較しやすくするため、同じような内容でアンケートを行っております。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） では、続けてどうぞ。

○委員（齋藤裕吉君） その件はわかりました。比較という点ではそのような必要があるかなと思います。

もう1つは、最近読書離れということが一般的にはよく耳にする言葉になってきておりまして、これからの子どもたち、子どもたちのみならず生涯学習という視点から考えた場合には、この問題についてはいろいろな角度から考えていかなければいけないことだと思うのですが、調査項目が全国あるいは都レベルと同一ではないとしても、共通するような内容というものはあると思います。府中市の傾向が、今、一般的な傾向と同じような流れになっているのかどうか、この辺も1つ興味があるところでありまして、府中市独自の結果が出ているという部分があれば、それはそれとして注目をし、平均的ならば、それをどんどん伸ばしていかなければいけないし、マイナスとして結果が出ているということであれば、そこを特に力を入れていく必要があると思うのですが、そういう点で全国あるいは都の類似した調査結果との比較検討ということが、どのようになされているのかお話を聞きたいと思います。

○図書館長（坪井茂美君） 先ほども答弁いたしましたように、ほかの団体との設問につきましては、同様のものとはしてございません。特に独自のものといたしましては、「お話を聞くのが好きですか」というところは府中市独自のものと存じます。それによって、学校での保護者の読み聞かせ、それから図書館等でおはなし会が積極的に行われている結果がどう反映されているか、子どもたちの心にどう響いているかということが書かれたものと思います。

今後、こちらにつきましては、今回、調査結果がまとまりましたので、これをもとにまた連絡協議会でほかの調査結果と比較をいたしまして、どういうところが足りないかを考えてまいりたいと存じます。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） いかがでしょうか。

○委員（齋藤裕吉君） わかりました。よろしくお聞きしたいと思います。私どもも一緒に考えていきたいと思っています。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにございますでしょうか。

○委員（村越ひろみ君） 2つほどお伺いしたいと思います。

アンケートの対象者ですけれども、この児童・生徒と保護者と校数が違っていますが、同

じ学校の児童・生徒、保護者に質問しているのかを伺いたいのと、あとは保護者の設問の中の最後に何かご意見、ご要望等ありましたらという一覧がございますが、どんな内容のものがあったのかお聞かせいただけたらと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 2点です、お願いします。

○図書館長補佐（山本征史君） 対象につきまして、まず実施先の学校ですが、小学校が九小、南白糸台小学校、日新小学校、新町小学校の市立4校で6年生を対象に実施いたしました。前回と一緒にございます。中学校は四中、九中、浅間中の市立3校で2年生を対象に実施いたしました。高校生は、都立高1校で府中高校の2年生を対象に実施いたしました。これらも前回と一緒にございます。

次に、保護者の調査対象でございますけれども、保健センターの健診時のほかに矢崎幼稚園、みどり幼稚園、小柳幼稚園の3幼稚園、八幡保育所、東保育所、小柳保育所の3保育所。九小、南白糸台小学校、日新小学校、四中、九中、浅間中の6校の全学年の全クラス、全校生徒の保護者が対象になっています。これらも前回と同様になっています。

対象についての質問は以上でございます。

○図書館長（坪井茂美君） 保護者のご意見につきましては、どういう場所でおはなし会をやっているのかというご意見、ご質問などがございましたし、逆に、読み聞かせをするのにどのような資料が適しているのか、どう調べたらいいのかということもございました。また、必要性がないとお答えいただく保護者の方もいらっしゃいました。ご家庭での読書も大切なものと認識してございますので、それを私どもがどうやって、読んでいただく必要を感じていただけるのかを考えさせられるご意見だったと存じます。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） よろしいですか。

○委員（村越ひろみ君） ありがとうございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告・連絡（3）について了承いたします。



◎その他

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第5、「その他」ですけれども、何かございますか。



◎教育長報告

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第6、「教育長報告」に移ります。

活動状況につきましては、別紙の「平成27年第12回教育委員会定例会 教育委員会活動報告書」のとおりでございます。

なお、この報告書は、平成27年11月14日から12月11日までの活動内容となっております。私のほうからは付け加えることはございません。以上です。



◎教育委員報告

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第7、「教育委員報告」に移ります。活動状況につきましては、別紙のとおりでございます。まず、崎山委員からお願いいたします。

○委員（崎山 弘君） それでは、崎山より、11月19日の前回の教育委員会定例会以

降の活動について1つ報告いたします。

11月21日、土曜日に武蔵台小学校の学校保健委員会で「こどもの姿勢をよくするために」というタイトルで講演をさせていただきました。

最近の子どもは姿勢がよくない傾向にあるので、その改善策としてヒントになるようなものを話してほしいという要望でした。姿勢を形づくるのは骨と筋肉と関節です。子どもの骨と関節は特に何もしなくても姿勢をつくるには十分です。ただし、筋肉は使わないと弱くなります。少しは鍛える必要がありますが、特別な体操などは不要です。正しい姿勢を5分間続ける、10分間続けるように毎日少しずつ時間を延ばして、これを意識して1日に何度も繰り返すだけで姿勢を維持する筋力はつくはずですが、また、正しい姿勢をわかりやすく教えてあげることも必要です。「だらけていないでピシッとしなさい」では、子どもは体を硬直させるだけです。「背筋を伸ばしなさい」、「正面をむいてごらん」、「もう少し顎を引いたほうが格好いいね」、「手は膝の上がいいよ」などと、子どもたちが具体的に何をすればよい姿勢になるかを手本を示しながら教えることから始めたいと思います。

ただ、もっと基本的な考え方として、正しい姿勢を示すことは挨拶と一緒にということを知ってもらい必要があります。姿勢は、みずからの意思を持って人に示す体の構えです、目の前の相手によって姿勢の取り方は変わります。しかし、「他人に失礼だから姿勢を正しなさい」では何も伝わりません。大人も子どもも、自分が大切にされていると思う相手には敬意を示すものです。憧れている人の前では失礼のないように振る舞います。そういう人の前では自然と良い姿勢を示したくなるものです。このような話をしていると、聞いているPTAの保護者の方々も何げなくちょっと慌てて姿勢を正している様子がおもしろく思えましたし、今もそういう雰囲気を感じております。

いずれにせよ、「姿勢が悪いと病気になる」「姿勢が悪いと成長に影響がある」などおどすことはやめましょう。姿勢がよくなるグッズ、食べ物、サプリメントなどはお勧めしませんというようなお話をさせていただきました。私の報告は以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、齋藤委員、お願いいたします。

○委員（齋藤裕吉君） 私の活動状況につきましては、別紙のとおりでございます。

その中で12月6日、日曜日に行われました第20回府中市小中学生の人権作文発表会に参加しましたときの感想を、ここで申し述べさせていただきたいと思っております。

府中市内の応募作品が1万2,000点という多くの応募があったわけですが、その中から選ばれた25人の子どもたちの人権作文の発表ということでございました。この発表会につきましては、毎年とても素晴らしい発表があるわけですが、今回はとりわけ素晴らしい発表であったという感想を持ちました。文章表現力というものもさることながら、その内容が子どもたちが本当に真剣になって、それぞれの年齢や経験に応じて人権というこの大事な問題につきまして、一生懸命に考えたものであったと思える、そういう内容でございました。内容の種別としては、いじめ問題とか、障害にかかわる課題、戦争と平和の問題、外国人や文化にかかわる課題など多様であり、かつ自分の経験や自分自身にかかわる部分を率直な自己開示も含めて考えを述べていく発表でありまして、聞いている者にとりまして、とても感動的な発表内容でございました。今回の発表は小中学生25名だけであったわけですが、応募した府中市内の1万2,000人の子どもたちが、それぞれに人権という

ものに向き合って、子どもたちなりに自分自身の問題として考えたというこのような取組は非常に大きな意義があると改めて感じた次第でございます。

また、後半の部の最初のところで本宿小学校合唱部の歌声を鑑賞することができました。非常にすばらしい歌声でございました。さすがだなという印象を持ちました。

人権作文発表会に参加をいたしました感想を述べさせていただきました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、村越委員、お願いいたします。

○委員（村越ひろみ君） 活動報告としては別紙のとおりです。

私事の事情がありまして、活動をほとんどできませんでした。ほかに何かお話ししようかと考えたのですが、お話しできる内容を考えることができないまま本日を迎えてしまいました。母の急逝に伴い前回の委員会を欠席してしまったことのお詫びと、葬儀に際しましてはたくさんの皆様に賜りましたご厚情に感謝を申し上げますこと報告に代えさせていただきますたくお願い申し上げます。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、続きまして松本委員、お願いいたします。

○委員（松本良幸君） それでは、松本よりご報告させていただきます。

今回は、12月4日、住吉小学校で実施された「東京都教師道場部員による授業公開」へ参加した感想です。

私は、東京都教師道場という活動について知識がないことと、6年生に対して「わたしたちのくらしと政治」という単元で授業をするということに興味を湧きましてお邪魔してまいりました。通常参加する学校全体の研究発表と違い、こぢんまりとした発表会でしたが、公開授業も先生方の発表も間近でじっくり聞くことができ、とても勉強になりました。

若手中心の先生のグループが、授業の進行や教材作成などについて丁寧な準備検討を行ってから子どもたちに向かい合う姿勢は、とても頼もしく先生方の努力を感じることができました。公開授業の後で行われた研究協議会では、講師としてご指導いただいた秀明大学教授の押尾先生や同世代の先生方から鋭い指摘や意見もあり、とても建設的な意見交換がなされていました。民間の企業では1つのプロジェクトに向けて集団で取り組むケースが多くありますが、クラス単位を全て1人で管理する小学校では、横や縦のつながりを常に持って仕事をすることは少ないのではと思いますので、今回、見学させていただいた教師道場のような小集団での討議や意見交換は、授業スキルのアップという目的において、とても効果があるのではと思いました。また、これは私からの提案ですが、ベテランの先生のスキルアップと若い世代への技術移管を目的として40代、50代の先生が教師道場に割って入り、新旧の指導技術のぶつかり合いによる切磋琢磨の場として、仮称ですが「府中市教師道場破り」も企画してもらえればと思います。以上で私からの報告を終わります。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、これで平成27年第12回府中市教育委員会定例会を閉会いたします。



午後2時07分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

平成28年1月21日

府中市教育委員会教育長

浅沼 昭夫

府中市教育委員会委員

齋藤 裕吉